

経営比較分析表（平成30年度決算）

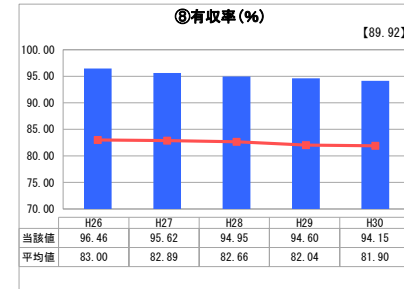
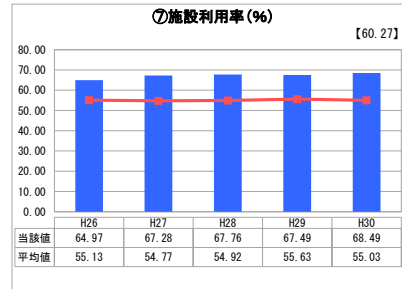
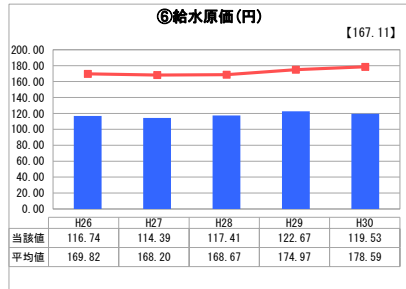
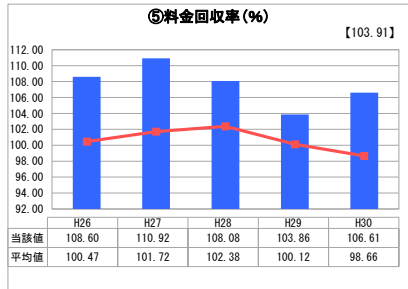
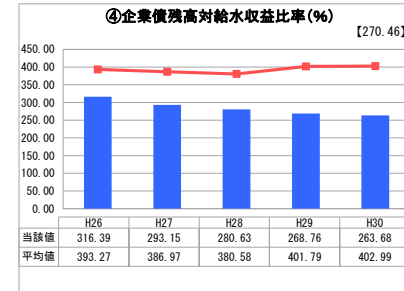
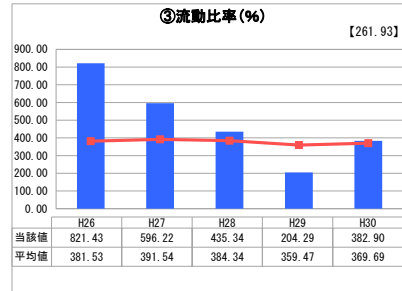
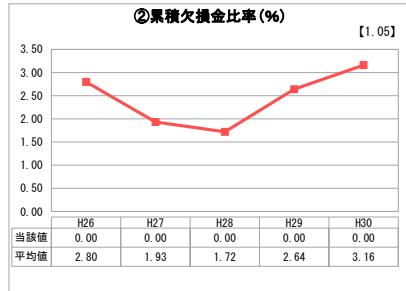
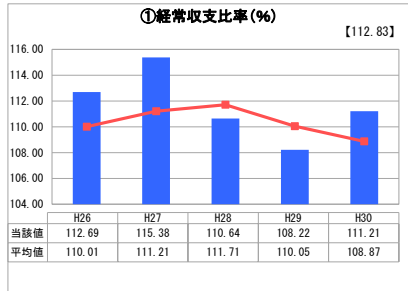
栃木県 野木町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	79.48	87.98	2,480	

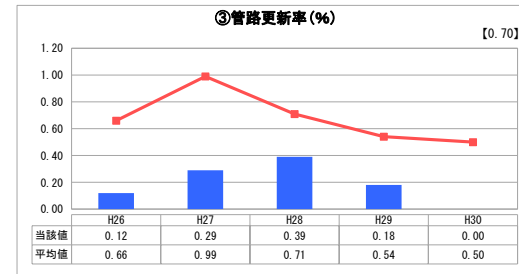
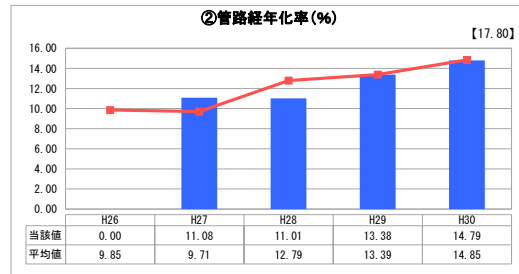
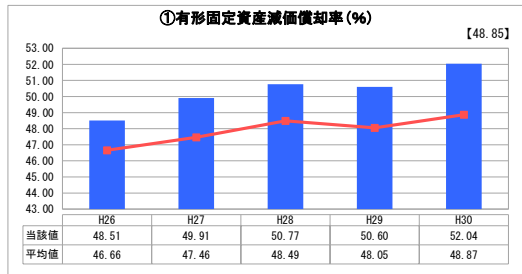
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,633	30.26	847.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
22,533	20.53	1,097.56

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
⇒100%を超えており、さらに類似団体より比較的高い数値となっており、経営は概ね良好である。
- ②累積欠損比率
⇒累積欠損金はなし。
- ③流動比率
⇒流動比率は100%を超えていて資金残高は維持できている。また類似団体や全国平均と比べてみて比較的高い数値となっており概ね良好。
- ④企業債残高対給水収益比率
⇒ほぼ一定の比率で推移している。年々少しずつではあるが減少傾向であり、類似団体や全国平均と比べても比較的低い数値となっている。しかし将来的負担の軽減のため減少させていきたい。
- ⑤料金回収率
⇒指標が100%を超えており、給水に係る費用が給水収益で賄われている。
- ⑥給水原価
⇒類似団体や全国平均と比べて原価は安い傾向である。
- ⑦施設利用率
⇒過去五年をみてもほぼ横ばいで毎年一定の数値で推移している。
- ⑧有収率
⇒過去五年を比較すると年々減少傾向にある。類似団体や全国平均と比べたら、高い数値であるが、近年漏水件数が増えおりその影響と考える。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
⇒固定資産全体の老朽化度合を示したものであり類似団体や全国平均よりも高い数値である。老朽化した施設の更新は順次進行中であるが、追いついていないことを示している。今後は順次更新をしていく必要がある。
- ②管路経年化率
⇒固定資産のうち管路の老朽化度合を示したものであり、類似団体とほぼ同水準である。
- ③管路更新率
⇒全国と比べ低い水準である。管路の耐用年数が迫っているため計画的に更新を進める必要がある。

全体総括

経営状況的には、「経常収支比率」、「流動比率」、「料金回収率」ともに100%を超えており黒字経営による健全な経営を行っている。しかし、今後の節水や人口減少による需要の低下、管路・施設の老朽化による修繕費の増加。管路更新に伴う費用など、将来的に健全な経営ができるかという状況であると予測できる。今後効率的な設備更新と持続可能な事業運営が必要不可欠となる。